

つぶされて
たまるか!

下げろガソリン! 上げるな消費税!

10・22 **つぶされて
たまるか!** 中小業者決起集会

■10月22日(水) ■東京・日比谷野外音楽堂 ■主催 全国商工団体連合会

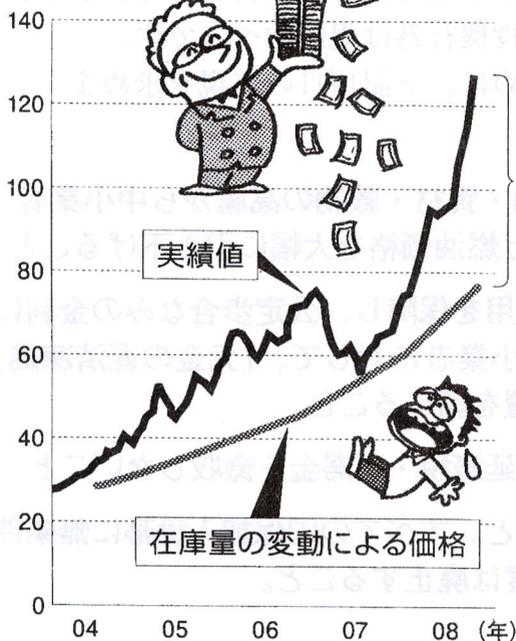
原油・資材
穀物高騰

原因は「**投機マネー**」

ただちに規制を

投機で本来より50ドルも上がっている原油価格

(ドル/バレル)



(「通商白書」から作成)

石油市場に流れこむ「投機マネー」

原油高で潤った中東産油国からのオイルマネーや投資ファンド、年金基金など「投機マネー」がいっせいに石油市場に流れ込んでいます。ヘッジファンドなどの投機マネーは、国民生活に直結する原油や穀物の先物市場にまで乗り出し、諸物価の高騰を引き起こしています。

国際的に強まる規制の声

政府は「原油高騰の主因はヘッジファンドの投機にある」と認めながら、規制には消極的です。

投機マネーの規制を求める声は国際的に強まっています。日本政府は率先して、投機規制の国際協調の枠組みづくりをするべきです。

投機規制で軽油1リットル・60円、ガソリン1リットル・110円に

投機マネーによる価格高騰などの要因を取り除いた場合、原油の実勢価格は1バレル70ドル程度。それを基準とした場合、軽油は1リットル・60円、ガソリンは1リットル・110円程度です。政府の責任で、軽油やガソリン代などを緊急に引き下げるべきです。

「1バレル70ドルが上限」甘利大臣も証言

甘利経済産業大臣は「原油価格の上限は70ドルではないか。少なくとも40ドル以上は高くつけている」と発言しています(第169国会・経済産業委員会)。